

佐倉福音キリスト教会

サクサク通信

2020年1月号(第61号)



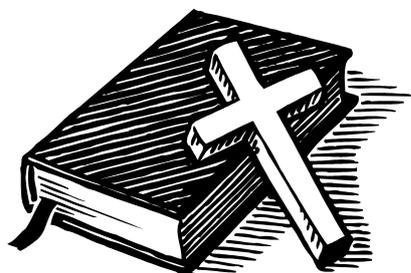
牧師：大高 伊作

電話：043-461-2983

住所：佐倉市白井田 774-83

mail: isaku.sakura.church@gmail.com

HP : <http://sakura-fukuin.com>



今月の聖書のことば

ほむべきかな 主。日々 私たちの重荷を担われる方。この神こそ 私たちの救い。

【詩篇 68 篇 19 節】

新しい一年が始まりました。皆様はどのような年末年始を過ごされたでしょうか。私は年末からインフルエンザにかかり、大事な 2019 年最後の礼拝をお休みする事態を招いてしまいました。家族とも離れて生活することになり、なんとも寂しい日々を過ごしましたが、妻が優しく接してくれたのが何よりでした。

さて、サクサク通信も丸五年続けることができ、61 号を発行するに至りました。2020 年最初の通信では、ダビデが歌った詩篇を取り上げます。ダビデは次のように歌いました。「ほむべきかな 主。日々 私たちの重荷を担われる方。この神こそ 私たちの救い。」ダビデは、「ほむべきかな 主」と言って、神様を賛美します。その主について、「日々私たちの重荷を担われる方」と

表現します。聖書の神様は、私たちに重荷を担わせるのではなく、私たちの重荷を担って下さるお方です。しかも、ここには「日々」とあって、いつも重荷を担って下さるお方であることが歌われています。「重荷」とは人それぞれ違うものです。主婦には主婦の、サラリーマンにはサラリーマンの、学生には学生の、それぞれの立場によって違います。もちろん重荷と感ずる種類も違いますから、この場でどれが重荷で、どれが重荷でないかと細かく仕分けすることはできません。ただ往々にして、私たちは様々な責任が肩にのしかかってくる時、それを重荷と感ずることがあるのではないのでしょうか。子育てを始めた人は、子どもが育っていく喜びを覚えつつ、この子をしっかりと育てていかなければ、とプレッ

ヤーに感じることもあります。仕事上の役職が上がり、部下がつき、管理する立場になると負担がのしかかることもあります。学生であっても義務教育を終え、将来への漠然とした不安があり受験や就活を重荷に感じることもあります。このようなそれぞれの重荷をどうしたらよいのでしょうか。

それは、「日々 私たちの重荷を担われる方」にお任せするのです。もちろん、目に見えない神様に「お任せする」ということは少しイメージしにくいかもしれません。当然、実際に行動するのは私自身であり、神様が目に見える形で登場して代行してくれるわけではありません。しかし聖書は、神様について「重荷を担われる方」とであると語ります。更に「この神こそ 私たちの救い」と言います。聖書の神は、私たちの重荷を担い、救い出して下さるお方です。イエス・キリストも次のように言っておられました。

「すべて疲れた人、重荷を負っている人はわたしのもとに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ 11:28)。

～集会案内～

- 日曜日：聖日礼拝 11:00～12:30 ○水曜日：聖書研究祈祷会 10:30～12:00
教会学校 10:00～10:40 (子どもから大人まで) 19:30～21:00
○毎月第2火曜日：ユニケの会 10:30～12:00 (子育てなどをしている方のための集い。)

聖書に関する疑問等ございましたら、遠慮なくご連絡ください。また、当教会は、エホバの証人やモルモン教、統一教会等とは一切関係のない、プロテスタントキリスト教会です。

あなたが今「重荷」に感じていることは何でしょうか？その重荷に押しつぶされそうになり、疲れ果ててしまっているということはないでしょうか？そのような状況にある方は「重荷を担われる方」のもとに、「イエス・キリスト」のもとに来てください。イエス・キリストは「わたしがあなたがたを休ませてあげます」と言ってくれます。イエス・キリストが与える真の休息こそ、私たち人間が本当に必要としているものです。新しい一年が始まって、必ずしもこれまでの重荷が綺麗さっぱりリセットされるわけでもありませんから、自分で背負うのではなく、イエス・キリストのもとに重荷をおろしてください。

◆コラム

通信の最初に書いたように、年末にインフルエンザを発症し、礼拝を欠席してしまいました。心当たりはなくはないのですが、自分の健康管理の甘さを痛感しました。礼拝はICレコーダーに説教を吹き込み、それを流す形で行ないました。二日間寝込み、三日目になってようやく仕事に取りかかれるようになりました。家族とも離れ、娘はあまり意に介さず、といった様子なのですが、こちらは寂しい限りでした。時に健康を害すると日々が当たり前ではないことに気づかされ、感謝の思いが湧き上がります。ぜひ皆様もご自愛ください。